

令和 6 年度事業・活動報告

特定非営利活動法人 旭川 NPO サポートセンター

【事業の成果】

令和 6 年度は、新型コロナウイルスの影響も薄れ、大きなイベントも数多く開催され、市民活動も本来の動きが戻ってきたように思います。旭川 NPO サポートセンターでも多くの事業を実施することが出来ました。

指定管理をしている旭川市市民活動交流センターCoCoDe では、キッズワールドや CoCoDe まつりを開催し、多くの参加や来場があり交流の場を提供できました。農福連携事業では、念願のビニールハウスを建て、多くの農産物の収穫がありました。また、空き家事業を含め生活困窮者の方々に働いてもらうことで、彼らの社会の役に立てるという自信や生活の向上につながっていったように思います。子育て事業も引き続き多くの利用がありました。また、研修会・交流会も行い子育て環境のパワーアップを図りました。

今、世界に目を向けると、対立や緊張、分断を生むような出来事が多くなっているように思えます。このような中で市民活動の果たす役割はますます重要になってくるものと思われます。地域社会で何が必要か、何が求められているか、を考えながら活動を行っています。

■事業名（旭川市指定管理事業）

旭川市市民活動交流センター指定管理業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

旭川市市民活動交流センターCoCoDe に関して、

- 1) 施設の使用承認／管理運営／維持管理
- 2) 市民活動団体の登録
- 3) 市民活動に関する情報収集・提供／相談・コーディネート／学習機会の提供／交流及び協働の促進
- 4) その他自主事業等

【事業期間】

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日



秋の CoCoDe まつり

【事業内容・事業成果・課題等】

1) 施設の使用承認／管理運営／維持管理について

- ① 利用件数 3,258 件、利用者数 68,899 名、利用料金 9,612,167 円。
(前年度 利用件数 3,054 件、利用者数 56,048 名、利用料金 9,890,981 円)。
- ② 施設清掃業務、施設敷地内管理業務、点検等その他業務について所定通り実施。

2) 市民活動団体の登録について

- | | |
|--------------------|------------------|
| ① 市民活動情報サイト登録 | 271 件（前年度 268 件） |
| ② 市民活動交流センター登録（団体） | 432 件（前年度 424 件） |
| ③ 市民活動交流センター登録（個人） | 0 件（前年度 0 件） |

3) 市民活動に関する情報収集・提供

① CoCoDe 通信の発行～毎月 1,000 部

② 利用者懇談会

7/2 実施 参加 8 名

前期と後期に分けて実施。前半期の実績報告と次半期の計画報告を行った。また、現在 CoCoDe が抱えている課題について利用者意見を伺った。

③ 日本郵便年賀寄付金助成金説明会

9/28 実施 参加 11 名

日本郵便年賀寄付金助成金の特徴ならびに一般的な助成金申請の際のポイント等について東京からきた事務局担当者から説明があった。日本郵便の助成金は多様な非営利活動が助成の対象になっている（間口が広い）、また採択率が比較的高いなどの特徴を持つ。また、申請書を書くポイントとしては字数制限や誤字脱字など基本的なルールを守ること、専門用語を用いず平易な言葉で表現することが重要との事。2 団体については個別相談会も実施した。

④ CoCoDe トークサロン

9/6, 1/17 実施 参加 9 月→10 名、 1 月→18 名

・9/6 旭川市社会福祉協議会ボランティアセンターの堀川沙織様から、①ボランティアセンターについて②能登半島地震に係る災害派遣について③旭川市における災害ボランティア活動支援についてお話を伺った。能登半島での活動報告は大変興味深かった。旭川でのボランティア活動や防災意識の実態について参加者の意見交換を活発に行うことができた。

・1/17 写真家の谷口雅彦氏をゲストスピーカーに迎え、「旭川の写真アーカイブ」をテーマにお話していただいた。内容は、1. 写真家としての歩み、2. 旭川でこれまで撮影された写真や、最初の写真師として活躍した中鉢直綱について、3. 写真アーカイブの意義の 3 つに分けてお話された。特に一般の人々が撮影される数多くの写真を集め、管理保存することが、後世の人々にとって大きな価値を持つ重要性について話された。

4) 相談・コーディネート

① 日常の相談・コーディネート～NPO 設立運営相談等。

相談総数 87 件。（内訳：個人 20 件、市民活動団体 58 件、企業 9 件）。（前年度 92 件）

② 会計決算相談会

3/23 実施 参加 6 名

佐藤はるみ税理士をお招きし、個別の団体毎に決算書類の見方、作成の仕方、抱えている課題等について相談があり、指導していただいた。

5) 学習機会の提供について

① 地域災害対策セミナー～遊んで学ぶ避難所運営～

12/21 実施 参加 20 名

いつ発生するかもしれない自然災害に対して、普段からできる備えとして、ハザードマップを見て自分の住む地域を知ること。また避難所運営ゲームを通して被災時の課題をシミュレートして、様々な課題にどう判断して対応するのかを学ぶことができました。

6) 交流および協働の促進について

① 北彩都ごみゼロ大作戦

4/21 実施 参加 66 名

4 年ぶりに CoCoDe 利用者のみならず、町内会／行政機関の職員／企業の方と協力して実施。参加者 66 名、円環広場と公共駐車場を清掃し、合計 51kg のゴミが収集されました。

② キッズワールド 2024

5/5 実施 参加 1,000 名

コロナで暫く休止していたが「帰ってきたキッズワールド」と称して実施。市民活動団体や NPO が“市民の力で、子どもたちが遊べる・学べる・楽しめる空間を創ろう！”という開催趣旨のもと、子どもたちが安心して楽しめる体験(工作・体験など)、学び・交流の場を提供しました。

③ キャンドルナイト in 旭川

6/8 実施 参加 250 名

電気を消して、スローな夜を過ごそうをスローガンに、少年少女オーケストラやメランダのミュージックと皆既日食の講演プログラムのキャンドルナイトを開催しました。

④ 秋の CoCoDe まつり

11/2 実施 参加 600 名

コロナ明け後実施する初めての CoCoDe まつり。日頃、当センターを利用している市民活動団体や NPO 団体等が、ステージ・ブースで活動の成果を発表いたしました。ダンスやフリーマーケット・作品展示など幅広いジャンルが一同に会し、盛りだくさんの 1 日となりました。また、市内と近郊で活躍する 3 名のスポーツ関係者をお招きし、スポーツによる”まちづくり”をテーマにトークセッションを実施しました。参加団体 30 団体。

⑤ リユースギフト市

12/21 実施 参加 40 名

着なくなった、使わなくなったけど、まだ使える、他の人が喜んで使ってくれそうな古着・古本・古雑貨などをお持ちいただき、12 月 21 日に全て無料でお持ち帰りいただいた。

■事業名（旭川市及び周辺 8 町委託事業）

ファミリーサポートセンター事業

・上川中部子ども緊急さぼねっと事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

旭川ファミリーサポートセンター「育児型」は子育ての援助を受けたい方と援助を行いたい方が会員になり、お互いに地域の中で助け合いながら子育てをする会員制の相互援助活動を行う。また 1 市 8 町から受託した「上川中部子ども緊急さぼねっと」は宿泊を含め、病児・病後児の預かり、臨時的・突発的なニーズに予め登録している地域の人子どもを預かる事業で、子どもを預かって欲しい人との橋渡しを行うことにより、地域の子育て支援・児童の福祉の向上を図ることを目的としている。



【事業期間】

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

◎ファミリーサポートセンター「育児型」

- 1) 会員の募集、登録業務
- 2) ハローワーク、保育所、学童保育施設等に周知広報
- 3) 子育て支援者養成講座実施（「上川中部子ども緊急さぼねっと」との合同養成講座）
前期子育て支援者養成講座
日 程： 5 月 15 日.16 日.17 日.20 日.22 日.23 日.6 月 3 日 参加者： 20 名
後期子育て支援者養成講座
日 程： 10 月 16 日.17 日.18 日.21 日.23 日.24 日 参加者： 24 名
- 4) 依頼会員と提供会員の事前打ち合わせの調整
- 5) 依頼時の相互援助の連絡調整
- 6) 会員の交流・情報交換・意見交流会実施（上川中部子ども緊急さぼねっとスタッフとファミリーサポートセンター提供会員合同研修会）
 - 1 回目 日時：令和 6 年 6 月 26 日（水） 参加者：25 名（講師職員）
内容：旭川市子ども総合相談センター職員と意見交換会および手遊びで交流会
 - 2 回目 日時：令和 6 年 10 月 2 日（水） 参加者：30 名
内容：フォークダンス体験交流会
講師：道北地区フォークダンス連合会旭川ブロック
 - 3 回目 日時：令和 7 年 2 月 19 日（水） 参加者：29 名（講師職員）
内容：支援を楽しむ“あそび”
 - 4 回目 日時：令和 7 年 3 月 28 日（金） 参加者：26 名（講師職員）
内容：乳幼児のあそびとかかわり

講師：NPO 法人北海道子育てワーカーズ 木場いづみ氏

- 7) 関係機関等との情報交換、連携を図るための会議
- 8) サブリーダーの情報交換を行うサブリーダー会議実施
- 9) 月毎に市へ報告及び助成請求
- 10) 年 1 回通信「育輪」発行

【事業成果】

- 1) 会員数 依頼会員： 1,573 名 提供会員： 166 名 両方会員： 24 名
 総会員数 **1,763 名**
- 2) 依頼総件数 1,608 件 (キャンセル 56 件)
 援助総件数 **1,552 件** (R5 年度 1,977 件)

◎上川中部こども緊急さばねっと

【事業内容】

- 1) 会員の募集、登録業務 (1 市 8 町)
- 2) 2)3)5)6)7)9)10)はファミリーサポートセンター「育児型」と合同事業内容
- 4) 利用会員入会手続及びスタッフ会員登録及び更新手続業務
- 8) 月 1 回「すりーA の会」実施 (開催日不定) 5 回 (研修会、意見交流会等) 参加者 27 名

【事業成果】

- 1) 会員数 利用会員： 1,843 名 スタッフ会員： 186 名
 総会員数 **2,029 名**
- 2) 依頼総件数 1,918 件 (キャンセル 304 件)
 コーディネート件数 **1,614 件** (前年度 1,956 件)

【課題】

ファミリーサポートセンター「育児型」は旭川市から本年度よりお稽古事の送迎を中止する旨を伝えられた。提供会員の自家用車使用による送迎が減少していることも要因でもある。旭川市内にはタクシー会社 2 社が子育てタクシーを提供しているので依頼会員にそちらの利用を促している。会員は増加していると聞いている。

緊急さばねっとは元気預かりの件数が増加しており、親御さんの仕事による預かりは当然ながら、リフレッシュとしての利用も多くなり、子育て中の母親にとっては必要不可欠な制度と思われる。

今後も、子育て支援者養成講座で支援者の登録者が増えることを期待したい。周知活動も含め、子育て世代に安心安全なサポートが提供できるよう努めていきたいと考えている。

■事業名 (旭川市委託事業)
 旭川市母子家庭等日常生活支援事業
 ■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に
健康と福祉を



【目的】

様々な事由により、一時的に日常生活に支障が生じている場合や生活環境等の激変により、日常生活を営むのに特に大きな支障が生じている場合に、その生活を支援する者を派遣するなどして、

母子家庭及び父子家庭の生活の安定を図ることを目的としている。

【事業期間】

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

【事業内容】

- 1) 依頼時の利用者と家庭生活支援員の生活援助及び子育て支援の連絡調整実施
- 2) 関係機関との情報交換、連携を図るための会議実施
- 3) 月毎に市へ報告及び利用料の申請実施
- 4) 家庭生活支援員資格者の手続き実施

【事業成果・課題】

- ① 会員数 利用会員登録：27 名 家庭生活支援員：15 名 子育て支援員：33 名
- ② 利用状況 生活支援 320 件（前年度 364 件） 子育て支援 45 件（前年度 101 件）
利用合計 365 件

住居の清掃や食事の準備もできず生活環境が劣悪な状態となっており、生活支援や子育て支援を行っている。また、父子家庭の利用が増えている。

旭川市子ども総合相談センターと連携を取りながら支援する家庭の増加がみられる。

■事業名 (旭川市委託事業)

子育て交流活動推進事業実施業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

子育ては親だけでなく、地域社会全体の支えが大切ということから、子育てに関する、様々な関係機関や団体などが連携して、保育所や、幼稚園に通っていない児童を家庭において養育している全ての保護者がいつでも子育てについて相談でき、また、保護者同士や子育て経験者等と交流できる環境づくりを行う。

旭川市内には子育て中の親が自主的に活動する育児サークルや、地域住民で子育てを支援する子育てサロンがあり、それらの団体に対して活動の際の会場費の補助を行う。また子育て支援を望む団体・個人が人材バンクに登録し、育児サークルや子育てサロンの託児や、特技等でサポートを行う際のコーディネートを行い子育て環境の充実に寄与する。

【事業期間】

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

- 1) 登録している育児サークルに対する支援を地域子育て支援センターと連携して行う。
会場費補助 37 件、 13,070 円
- 2) 育児サークルへの支援員の派遣 支援員派遣数 19 件 支援員派遣者数 38 件の派遣
- 3) 育児サークル合同イベント（わんぱくフェス）日時 6 月 22 日（土） 参加者：60 名
- 4) 育児サークル事業説明会日時 4 月 24 日（水） 参加者：10 名
- 5) 育児サロン事業説明会 日時 4 月 25 日（木） 参加者：19 名

6) 子育てサロンへの支援

会場費補助 35 件、 45,000 円

支援員派遣数 3 件、 支援員派遣者数 3 名

7) 子育てサロン意見交換会 日時 11 月 1 日（金） 参加者 21 名

8) その他の支援

子育て支援センター、児童センター、留守家庭児童会、市立保育所、保健所等

支援員派遣数 64 件、 支援員派遣者数 149 件

9) 子育て人材バンクの登録 90 名

10) 育児サークル・子育てサロンの支援に関するニーズ調査及び分析

育児サークルは母親の就労で保育園入所や満 3 歳で幼稚園入園可能なこともあり減少している。親御さんにとって、現にある育児サークルが魅力あるものとなる様、子育て支援センターの先生方の協力を得ながら継続的な支援をしていく必要がある。

子育てサロンもサークル同様、参加者も少なくなり、運営費不足、後継者不足等の現状も踏まえた上で、より一層旭川市から補助を得られるよう支援を推し量りながら継続につなげていきたいと思う。

■事業名 （社団法人北海道医師会）

北海道に在住する医師を対象とした緊急時保育支援事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に
健康と福祉を



【目的】

子育て中の医師の仕事と家庭を両立させるためのサポートで、利用者が緊急に支援を必要とするとき、北海道医師会が利用者に代わって旭川 NPO サポートセンターに依頼するもので、女性医師等の働く環境を整えることによりキャリアの継続に寄与することを目的とする。

【事業期間】

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

【事業内容・事業成果】

1) 事業内容は上川中部こども緊急さばねつとに準ずる。

登録医師 22 名

利用件数 20 件

利用時間 28.5 時間

登録にあたっては、ファミリーサポートセンターの登録時に情報提供し、入会登録を促す。旭川市に於いてはファミリーサポートセンター事業が充実しており、また助成制度もあるために北海道医師会からの利用券を使用せずとも女性医師等にとってはキャリア継続できる環境が整っている。

■自主事業（委託事業）

東神楽町子育て世帯訪問支援事業（1名、利用39回、78時間）
東川町産前産後支援ヘルパー派遣事業（6名、利用76回、152時間）
当麻町産前産後支援ヘルパー派遣事業（1名、利用19回、38時間）
鷹栖町養育支援訪問事業（0名）
鷹栖町産前産後支援ヘルパー派遣事業（3名、利用17回、34時間）

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に
健康と福祉を



【事業期間】

令和6年4月1日～令和7年3月31日

【事業目的・内容】

子育て世帯訪問支援は家事・子育て等に関して不安を抱える子育て家庭、ヤングケアラー等がいる家庭にたいして、訪問支援員が居宅を訪問し、家庭が抱える不安や悩みを傾聴するとともに、家事・子育て等の支援を実施することにより、家庭や養育環境を整え虐待リスク等の高まりを未然に防ぐことを目的とする。

産前産後支援ヘルパー派遣事業はや対象家庭に対し、その居宅等に育児・家事支援を実施する者を派遣して支援を行う。

■事業名 こども食堂開設

子ども食堂&地域食堂

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に
健康と福祉を



手作りの料理を作る時間がないという親子や、シニアの方なども気がねなく参加できるよう、大人の方から参加費100円を頂いて、毎月1回土曜日に実施いたしました。また地域の方やフードバンクなどから食材のご寄付を頂き、何とか継続することができました。ボランティアで参加する高校生や大学生に学習支援や遊びなどで子ども達と一緒に過ごしていただきました。

【事業期間】

令和6年4月～令和7年3月



【事業内容】

実施回数：4月6日、5月11日、6月8日、7月27日、8月24日、9月21日

10月5日、11月23日、12月14日、1月11日、2月22日、3月14日 計12回

実施時間：11：00～13：00

参加者数：延 360 名

会 場：旭川市市民活動交流センターCoCoDe

【成果と課題】

大人からは 100 円の参加費を頂きましたが、物価高騰により、生鮮食品や、おやつなどの調達が厳しいことを実感しています。ただアンケートでは子ども食堂の継続を願う声が多く、経済的に困窮している世帯が多いことを実感しています。

■事業名 空き家整理の担い手に！生活困窮者の自立支援事業

■自主事業

8 働きがいも
経済成長も



【目的】

休眠預金の助成事業が終了しましたが、生活困窮者の生活的自立や孤独の解消、経済的自立を促すために、今年度もサポートセンターの自主事業として実施しました。これまでの事業実績により行政や地域包括支援センターなど各方面に周知されてきたこともあり、新規のご依頼や、リピーターからのご依頼があります。

【事業期間】

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

ビフォー



アフター



【内容】

空き家整理事業に登録する 20 代～60 代までの生活困窮者が約 40 名おり、この方たちに空き家整理や、荷物運搬、空家管理、草刈り、清掃、除雪などの作業を実施してもらいました。

相談受付数：延 38 件 うち依頼数 32 件

参加人数：22 名、延作業人数 135 名、延べ作業時間 約 490 時間

【成果と課題】

空き家対策事業に、今年度新たに 8 名の生活困窮者が参加されました。すぐに仕事に従事できる方もいらっしゃいますが、参加されても体力が続かず途中でリタイアする方もいます。参加者には当事業を通して、体力の増強や孤立の解消、コミュニケーション力の向上、賃金を支払することで QOL の向上に繋がっています。

■事業名

コミュニティファームでの農作業を通じた生活困窮者の生きがい
創出と自立・就労支援事業

■年賀寄付金助成金事業



【目的】

一般就労が困難な困窮者（被支援就労者）への中間的就労の場として、当センター所有のコミュニティファームにおいて、栽培のための畑整備や、栽培に関わる農作業及び販売に従事して頂くことにより、他者との共同作業や、コミュニケーション促進をはかる。さらには自己有益感の醸成、生活的・経済的自立を促す。

【事業期間】 令和6年4月1日～令和7年3月31日

【事業内容】

当センターが雨紛に開設したコミュニティファームにおいて、生活困窮者及び障がい者を受け容れて、福祉的就労と社会性回復の活動を進めた。耕作放棄地の耕作再開の担い手が、支援を必要とする生活困窮者であることは旭川市において初めての取り組みである。

【成果】

農業に従事する実人数は22名。延べ作業人数は280余名と多くの生活困窮者の参加があり、10名以上は週一回以上の農作業に従事した。また共同作業を通じコミュニケーション力、社会性を身につけたと感じた人数はそのうちの80%となった。孤立を抱えた生活困窮者にとってコミュニティファームが中間的就労の役割を果たした。

■事業名

北の国災害サポートチーム協力事業

■協力事業



【目的】

旭川NPOサポートセンターが幹事団体として参加している北の国災害サポートチーム（通称きたサポ）は、札幌／函館／室蘭の中間支援団体と災害支援を担う各種専門団体からなり、多様な主体間の連携強化に向けた平時からのネットワーク構築支援や、企業・NPO等による支援力の強化を目的とした活動を行っています。

【内容】

今年度は4/13、5/27、6/12と全3回で「災害時のコーディネーションを学ぶ研修会」に参加しました。また、10/28には「第5回これからの災害支援を考える北海道フォーラム～官民連携・多様な主体による被災者支援～」が開催され、当日の運営で協力いたしました。3/4、3/11、3/18には「被災者支援の多様な視点を学ぶきたサポ研修会」が開催されましたが、2025年度から2030年度の旭川市市民活動交流センターの指定管理者への応募作業に追われ、十分な協力ができませんでした。

北海道NPOサポートセンターが幹事団体から抜けたこともあり、改めて組織の在り方が議論されております。

その他、防災関連事業としては、単独で「地域災害対策セミナー～遊んで学ぶ避難所運営～」を開催し、20名の参加がありました。



■事業名■

ひとり親家庭へのあったかサポート

■助成金事業



(1) ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業（中間支援団体 NPO 法人 POPOLO）

【目的】

昨今の物価高や米価格の高騰の状況下で、ひとり親家庭へ食品を無料で配送する。
また、希望者には学習支援を行う。

【事業期間】 令和6年8月10日～令和6年12月31日

【事業内容】

- ① 食料支援 8月、12月の2回 利用世帯数 延べ480世帯
- ② 学習支援 9月1日～12月20日間に14回開催 利用児童数 延べ人数36人

【成果】

この事業を利用している世帯から案内を送ったほか、関係機関等にもチラシを配架したため新規で利用する世帯が約1割増えた。もともと相対的貧困率が高いひとり親家庭において、最近の米価格の高騰は家計を直撃するだけではなく、子どもの成長にも影響することから地域社会にとって非常に貴重な事業であった。

このことは利用世帯を対象にしたアンケート結果からも、母親たちからの多くの感謝の言葉からも伺えた。